

令和元年度 第1回 奈良県がん対策推進協議会 議事要旨

1. 日時：令和元年8月29日（木） 14：00～16：30
2. 場所：奈良県文化会館 2階 集会室AB
3. 出席者：長谷川会長、浦嶋委員、川本委員、駒井委員、四宮委員、辻井委員、西垣委員、林委員、南島委員、森本（広）委員、森本（優）委員、山田（宏）委員、山田（全）委員、弓場委員
傍聴者：2名
報道：1名
4. 議事内容
 - (1) 令和元年度計画（案）について（分野毎に報告）
 - (2) 第2回がん登録情報利用等審議部会 審議経過・結果報告
 - (3) ならのがん医療見える化推進事業について
 - (4) がん対策推進計画の中間評価に向けて
講師：国際医療福祉大学大学院 教授 埴岡 健一 氏
 - (5) 第3期奈良県がん対策推進計画の中間評価について
 - (6) 情報提供

■概要

- ・「第3期奈良県がん対策推進計画」の進捗及び令和元年度取組計画（案）の報告。
（がん予防・早期発見、医療、患者支援、がん登録、教育の各分野）
- ・「がん登録情報利用等審議部会」にて、奈良県の全国がん登録情報の利用について、奈良県のがん登録報告書（2016年症例）の公表前確認を実施した旨を報告。
- ・「ならのがん医療見える化推進事業」のH30年度実績及び今後のスケジュールを報告。
- ・次年度の中間評価に向け、協議会等の役割、評価方法及びスケジュールを確認。
- ・講演「がん対策推進計画の中間評価に向けて」
国際医療福祉大学大学院 教授 埴岡健一氏による講演。

■委員からの主な意見等

- (1) 令和元年度計画（案）について（分野毎に各部長より報告）資料1-1～1-8
（意見等）
 - ・資料1-5の3ページ、がん患者等への支援について、来年1月に予定されている県のイベントは、「小児がん患者の家族等交流会」というタイトルで、対象が県内在住の小児がん患者の家族等となっているが、AYA世代についての話も聞けるようなので、AYA世代の患者等にも門戸を開いてはどうか。
→（事務局）二部構成になっていて、前半は中田先生の講演会で、後半は小児がん患者

の家族の交流会になっている。前半の講演部分で幅広く募集をかけたいと思う。

- ・がん教育について、来年も外部講師の派遣を継続してもらいたい。学校の保健体育の先生だけでは、がんの教育は難しいと思う。9月28日、29日でリレーフォーライフが開催されるが、学生に興味を持って、がん患者を知ってもらえる機会になると思う。できればボランティアとして協力してもらい、実際にがん患者と触れ合ってもらえればと思う。
- ・学校でのカリキュラムが非常に厳しく、県として積極的な声かけは難しい。自主的に呼びかけ、参加いただくことは可能。

文部科学省のいうがん教育は、成人のがんを指す。小児がん、AYA世代のがんを網羅することは難しい。成人のがんで、正しくがんを知ることが大切。がん教育は、小学生、中学生、高校生と、発達段階に応じた教育が必要。京都ではがん患者が講師として招かれる例も多いと聞いている。

→(事務局)本年度は7校で外部講師によるがん教育を行い、モデル事業として実施する。モデル校と共に今後の事業を進めていきたい。

- ・先日「子供たちへのがん教育について考える」という会が全国に発足し、がん患者さん、産婦人科の医師等、約100人のメンバーが集まっているので、今後情報収集を進めていきたい。

奈良県民会議について、これまでは奈良市内で開催していたが、今回は橿原市で開催することで、これまでとは違った層の方が来られると思う。これまでとは別の方を啓発でき、いい取り組みだと思う。

(2) 第2回がん登録情報利用等審議部会 審議経過・結果報告 資料2

- ・議事内容について部会長より報告。

(3) ならのがん医療見える化推進事業について 資料3

- ・平成30年度取組成果及び今後の取組予定について事務局より説明。

(意見等)

- ・見える化が(がんネットならで)公開されて、今後どのような反響があるか気になる。がんで家族を亡くした友人は「このようなデータが欲しかった。」と言っていた。良い取組だと思うので、できる限り協力していきたい。
- ・見える化事業について、各がんサロンでも患者さんに周知するようにしている。参加者からは、「最新情報がほしい」という意見がある。
- ・(がん登録等のデータは公開できるまでに時間を要するため)タイムリーに情報を出すことは難しい。また、最先端の医療のことは学会で発表しているような情報もあるので、参考情報として出していければと考えるが、難しいところ。

(4) がん対策推進計画の中間評価に向けて 資料4

- ・国際医療福祉大学大学院 教授 埴岡 健一 氏より講演。
- ・計画の中間評価を行う目的や評価の方向性、ロジックモデルを活用した評価方法について講演された。

(5) 第3期奈良県がん対策推進計画の中間評価について 資料5

- ・第3期奈良県がん対策推進計画の中間評価に向けて、今後のスケジュールの共有と評価方法について事務局より説明。

(意見等)

- ・私は政策サミットに初日だけ参加させてもらった。県の計画策定時は、アウトカム等は問題ないと考えていたが、サミットにて中間評価トライアルを行う中で、アウトカム指標と施策が繋がっていないことがわかった。
- ・奈良県はロジックモデルができていて、分野別アウトカムができています。患者としては中間アウトカムがどうなっているのかが一番気になる場所。サミットでは、緩和ケアについて中間評価のトライアルを行ったが、判定がAだったのは良かった。これから患者意識調査があり、そこで見えてくるものがあり、患者と県民と地域、医療の均てん化がなされているかがまた見えてくると思う。また、それによって次年度の予算にも関わってくるということがわかった。
- ・今後の中間評価について、以前より項目が細かくなっているため本腰を入れないといけないと感じている。
- ・中間評価には、情報を正しく捉えて分析することの必要性を感じたが、それを個人が集中して行うのではなく、多角的に分析を行って評価していかなければならない。今後も、がん対策基本法がある限りは継続していくことなので、この手法を伝えていく必要がある。
- ・中間評価について、委員一人一人が、委員としての責務を果たしていかなければならない。

(6) 情報提供 資料6～7

- ・がんゲノム医療拠点病院について
 - ・小児がん連携病院について
- } 事務局より説明。

以上